

第4回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会	
日時	令和2年9月23日(水)15:00~16:40
開催場所	横浜みなとみらいホール レセプションルーム
出席者 (敬称略) (5名)	本杉 省三 委員(劇場計画研究者(日本大学名誉教授)) 明石 達生 委員(東京都市大学都市生活学部教授) 倉田 直道 委員(工学院大学名誉教授) 立川 好治 委員(有限会社ニケステージワークス 代表取締役) 水野谷 良子 委員(株式会社ヴォートル 代表取締役)
欠席者 (敬称略) (0名)	なし
開催形態	公開(傍聴人8名/報道10社)
議事	(1)新たな劇場の施設概要の検討 (2)その他
資料	議事次第 資料1:委員名簿 資料2:席次表 資料3:令和2年度第4回横浜市新たな劇場整備検討委員会 基本計画検討部会資料 資料4:(参考)横浜市の財政状況について 資料5:合同部会に向けて

#### 議事内容

##### 1 新たな劇場の施設概要の検討

##### 2 その他

#### 【本杉部会長】

- ・ 議題に入る前に、第3回基本計画検討部会の議事録について、委員の皆様へ配付させていただきます。承認いただきたいと思います。ご異議ありませんでしょうか。

**【委員】**

(異議なし)

**【本杉部会長】**

- ・ 異議がないということですので、第3回基本計画検討部会の議事録については、これにて確定させていただきたいと存じます。承認いただいた議事録は、今後、委員会のホームページにて公開させていただきます。
- ・ それでは、第4回基本計画検討部会の議題に沿って進めてまいりたいと思います。なお、ご質問、ご意見については、後ほどまとめて時間をいただきます。各委員からご発言いただくときには、挙手をして、お近くにあるマイクを使って発言してください。終わりましたら、マイクの電源をオフにさせていただきますようお願いいたします。
- ・ それでは、資料に沿って事務局からの説明をお願いいたします。

**【事務局】**

(資料3、4の説明)

**【本杉部会長】**

- ・ ありがとうございます。第1章、第2章は、これまでも出ていた内容だと思います。第3章、第4章、第5章が、私たちの前回の議論に基づいて変更、追加された内容になっております。第3章が7ページから、第4章が26ページから、第5章が35ページからとなっております。
- ・ 概算建設費につきましては、前回の部会で示された舞台設備などの基本事項の方向性や委員の皆様のご意見を基に今回の建設費算出に至ったわけですが、そのベースとなる基本的な仕様や考え方など、ご意見、ご質問をいただければと思いますが、いかがでしょうか。
- ・ また、第5章の観光・エンターテイメントのところ、このまちづくりについてはこれまでの部会でも議論が行われてきたところです。今回の資料の内容を踏まえて、そこについても併せてご意見いただければと思います。いかがでしょうか。
- ・ 明石委員、お願いします。

【明石委員】

- 第3章のところの施設の内容、そして、それを踏まえて第4章が概算建設費ということなので、ここについて確認をしたいと思います。
- まず第3章のところ、12ページの下イメージ図があり、後でももう一回詳しい図が出てきますが、必要な設備がこれだということかと思います。それから、次の14ページのところで、案1、案2がありますが、これは意見としては、案1の方だろうと思っています。それは、後ほどアクセスの問題を第5章との関係でも申し上げたいと思うのですが、2階からのアクセスにすることによって、特に地下工事を減らすことができます。それは、建設費を減らす方向になりますし、そして、搬入のトラックなどもグラウンドレベルで処理ができるようにすることで非常に効率的だろうと思うので、案1と案2を比べると案1だろうと思います。
- 次のページの舞台面数については、これは私よりも立川先生の方が詳しい部分かと思っています。その次の17ページに案1、案2があり、これは事務局からのご説明でも案2の方、簡素な方になっています。これは、案1までやるのはコストパフォーマンスやその後のメンテナンス費用を含めていろいろと考えていくと、機能として必要なものを最小限シンプルに入れていくということではないか、そちらを選択すべきではないかと思いますので、私は案2かと思っています。
- 次に案が出てくるのが20ページになります。20ページは、実は私は案1②の方が良いと思っています。いろいろなことを考えると、例えば駐車場の配置を含めたり、それから、歩行者動線では、おそらくとちのき通りは歩きやすい通りには改善しにくいと思います。新高島駅はとちのき通りの下にあるのではなく、キング軸の下にあり、おそらくキング軸は最終的にはデッキになるだろうと思いますので、そういうことも含めて歩行者動線とのつながりを考えていくと、私は案1②の方だろうと思います。
- そして、そうやって積み上げたのが26ページの面積ということになるのだろうと思います。これはどこまで一つ一つ見るのかというところが気にはなりますけれども、特に先ほどとの関係でいうと、インフラエリアというのが結構大きいです。13,000㎡になっています。これが地上階ならいいのですが、地下階がかなり大きくなっていくと、建設費に影響してくるのではないかと思いますので、それも含めて、先ほどのアクセスがデッキレベルの方がいいと思うところです。

- ただ、これは面積としてこれだけ要するという事ですから、表としてはそこには影響しておらず、細かいことは分かりませんが、大体そういうことになるだろうと思っています。これの積み上げのときに、ほかの劇場の言わば面積などをカウントして、大体それの妥当な線、新しい劇場としてということで事務局が積み上げたということですから、やり方としては少なくとも妥当だと思いますし、このような結果になっているのだろうと思います。
- 最終ページの参考資料で話がありましたが、全体として設計費含んで480億円、建設費が460億円ぐらいとのこと、44,000㎡で割り戻しますと、単純計算で大体床面積当たり100万円ちょっとということになっています。それはおかしい数ではないですし、むしろその辺を目標にするというのは十分妥当なところではないかと思っています。
- そして、この参考資料の内訳でいうと、ここ、何か文言があればと思うのですが、地下部分と書いてあり、これは基礎あるいは杭など、土工事のことを言っていて、少なくとも1万㎡ぐらいの駐車場が地下に入るところの工事費の部分は言っていないと思います。そうであれば、ボーリングしてみないと分からない部分もありますが、左側の建築物部分が320億円と書いてあり、それで、建物面積としては44,000㎡ですから、床面積当たりが70万からもう少しぐらいとなり、それはそんなにおかしい数ではなく、大体妥当な数字ではないかと思っています。
- そのような意味では、今ここでやれることとして、これから先はもう設計を詰めないと分からないところになります。この時点で概算ということであれば、この委員会から出す報告書として出すレベルでいうと、必要な施設の積み上げの面積がこうなり、その基本部分、特に断面が重要ですが、それを書いてあるものがあり、その上でターゲットとして大体このぐらいの予算というのが、このような公共施設では重要なところかと思っていますので、それで言えば、設計費入れて480億円というのは、そんなところかと思っています。

**【本杉部会長】**

- ありがとうございます。前回私たちが議論した内容を含めてこの資料が出来ていますので、今明石委員がお話しいただいたようにおおよその目安というものは、そこに帰結しているのではないかという話でした。
- そのほかご意見ございますか。立川委員、お願いします。

### 【立川委員】

- 先ほど明石委員から、劇場の諸施設の件で、舞台面数について何面舞台がいいのか、何面必要なのかという話があり、舞台に携わっている者としてということでご指名をいただきましたので少し申し上げたいと思います。
- 新国立劇場は、15ページの多面舞台（ケース1）と書かれている左側の図となりますが、これは4面舞台と書かれています、主舞台のほか、両脇と奥に舞台があります。この部分は通常、規模の大きな公演では、様々なセットの仮置場などの形で実際に使用されることが多いです。もちろんもっと小さな劇場では、例えば3面しかないところでそれをどうやるかということは、演出的な処理などで対処するということが多いです。
- ただ、そういうことを考えると、劇場をどう使うかということで、例えば右側のケース2では、側舞台の奥側にスタジオと書いてあるところがあります。これは、例えば本公演が主舞台で行われているときに、さらに、例えば次の公演のセットを仮組みして、そこである程度の実際のリハーサルができるというようなことまで想定したエリアだと思います。このことは劇場の稼働率、どのように劇場を使っていくかということでは非常に大きな要素になると私は考えています。そのほか、搬入口と接続している仮組み、組立場のようなものと非常に合理的だと考えます。
- そのため、単純に6面舞台というように面数を数字で言うのではなく、劇場のエリアをどのように有機的に使っていくかという視点からこういう面積が必要だというのを割り出すべきであり、単純に4面舞台とか6面舞台などとは言わない方がいいのではないかと私は思っています。
- もう一つは、断面図について明石委員から話がありましたけれども、新国立劇場の場合、今資料では4面となっていますが、実際は地下にそのまま舞台面が沈むだけの場所があります。ですから、4面というよりは、むしろ立体的に考えると5面あると数えてもいいのではないかと思います。それから考えると、コストなど様々なことを考えてあまり深く掘らないでということであると、その部分が地上部分に広がっているということで、決して今計画されている舞台の面積というのが過大なものではないと考えます。
- 何回か話しましたがけれども、劇場を有機的に使っていくには、そのための別の施設や運用方法、それから、管理運営のノウハウなどが必要になります。私は、このようにすることによって劇場の実稼働日数が上がる、そのことによって劇場の全体の、要するに、

管理運営経費を賄っていく余地が出てくると考えると、現在計画されている、一見6面のように見えますけれども、それは様々な用途でと考えると、決して過大なものではないと思います。むしろ、これから新たに次の世代に向かってつくっていく劇場としては、このぐらいの規模や機能がある劇場をつくるということは、非常に大きな意味があると思います。

#### 【本杉部会長】

- ありがとうございます。今説明があったように、15ページの案1と案2で、新国立劇場という名前が出ていますが、新国立劇場の状況を示しているわけではないということです。新国立劇場の場合には、立川委員から説明があったように、後舞台の両側にもスペースがあり、全面的ではないですけど、そこに大道具をかなりの量置くことができます。仮置きという表現を使いましたが、そのような場所があるほか、その奥には搬入口に接続した、中劇場と兼用の組立場があります。
- それに対して、右側の多面舞台と書いてある案2の方は、後舞台のところに組立場やスタジオと書いてあるように、舞台としてだけではなくて、ほかの目的にも使えるような機能を併せ持つということで、それだけの広がりを持つ場所を舞台と同じレベルに持った方がいいのではないかという案だと思います。
- その違いは、「後舞台 組立場」、「後舞台 スタジオ」と書いてあるところと、「側舞台」と書いてあるところに矢印があります。それらの間である程度大きな道具が移動できるという意味だと思います。つまり、大きな扉が多分あるということで、その扉を閉じることによってほかの作業ができます。遮音の問題をクリアしなければなりません、そういう意味で、非常に有効にスペースを使おうという理解かだと思います。
- 一方で、新国立劇場の場合には、扉は高いのですが、幅が数メートル程度しかないので、大きな道具がそのまま移動できるというよりも、分割して移動できるというような状況だと思います。そういった意味で、案1と案2の違いがここに表れているのだと思います。
- そのほかございますか。倉田委員、お願いします。

#### 【倉田委員】

- 建設費を算出する前提となっている機能の構成や面積などを拝見し、これまで議論し

てきた、想定されている使い方やホールのレベルということを考えてときには、ここに挙げられている機能に対しての面積というのはそれなりに妥当ではないかと思えます。

- それから、建設費についてですが、今の時点で本当に正確な数値を、建設した結果としての数値を出すというのは非常に難しいわけです。先ほども明石委員からも話がありましたように、まだ設計をしていない段階ですので、あくまでも計画レベルで想定の下での建設費ということになると思えます。その場合には、やはり類似例を参考にしたり、あるいは現時点での建設コストなどを見た上で数値を出していくということになると思えます。そういう観点で、今日のご説明あるいは資料を拝見しますと、この時点でできる範囲での丁寧な検討をされていると感じており、その意味ではこの480億円という数値はおおむね妥当ではないかと思えます。
- ただ、これは事業化の判断のための数値になるわけですが、この数値が独り歩きするというのは、その先に行っているいろいろ検討の妨げにもなったりすることもありますので、もう少し慎重に見ていく必要はあると思えます。そういう意味で、今日の部会で、短時間で決めてしまうというよりは、できれば各委員がこの資料をお持ち帰りいただいて、次回もう少し検討するというだけでもいいのではないかと考えています。
- ただ、今日拝見する限りにおいては、先ほど明石委員からもご指摘があったように、この建設費というものはおそらく、今回みなとみらいで想定されている敷地を考えると、地下工事をいかに少なくするかというのはかなり大きな要素だと思います。そういう意味では、地下工事を少なくするための選択肢ということでいろいろ検討されているので、それを前提にした場合には、試算値ではありますけれども、妥当ではないかと思っております。
- 次回部会でももう少し詳細に、次回部会でもう一度目を通して、部会として了承するということがいかがでしょうか。

#### 【本杉部会長】

- ありがとうございます。今日配付されている資料の29ページ、概算建設費の最後のところにも「民間技術の活用や創意工夫によりコスト縮減を図る。」と書かれていますし、必ずしもこの金額が固定されるわけではないと思えます。より一層の努力をしていただくことは、先ほど説明があった市の財政の問題からしても、ある程度考えなければいけないことかと思えます。

- ・ 今、倉田委員からも説明がありましたけれども、この概算建設費の内訳もなかなか苦勞が見えます。一般的には類似例を見ながらおおよその床面積規模に基づいて単価で大體割り出すというのが多いと思いますが、それに対して、ゾーンごと、エリアごとに鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造というように分けています。必ずしもこの通り実際の設計上うまく分けられるかどうかは分かりませんが、一遍に幾らということではなく、こういう分け方でやってみたらどうかという計算をしています。それから、特に敷地の条件が、安定した地盤までが深いという話を聞いていますので、土工事や杭の部分分けたり、舞台設備、舞台機構や音響・照明の設備を分けるというところに苦勞が表れているように感じられます。
- ・ ですから、いい加減なものではないということは言えると思いますし、今、明石委員や倉田委員からも、おおよその妥当性は認められるのではないかとの話でした。ただ、この場ですぐということではなく、もう一度持ち帰って、考えてみたらどうかという話でした。
- ・ そのほかございますか。水野谷委員、お願いします。

#### 【水野谷委員】

- ・ 私は19ページのエントランスロビーとホワイエについて話したいと思います。先ほど1人当たりのロビーのスペースということでご説明がありました。新国立劇場よりは小さく、東京文化会館よりは少し大きいというようなスペースを考えていらっしゃるということで、常々ホワイエやエントランスロビーの空間スペースがいかに重要かということをお伝えしてきましたが、方向性が合致してよかったと思いました。
- ・ お客様は、チケットを買われたときから、本番を楽しみにしながら過ごし、そして公演当日は、開場時間はわくわくドキドキしながら開演を待ちます。幕間は次の幕への期待を膨らませて、そして、終演後は余韻に浸りながら帰られます。ですから、この空間がストレスになっては絶対にいけないということが私の経験上の思いです。
- ・ さらに、このコロナ禍で開催されている現在の公演にあっては、コロナ対策である3密回避、これについてエントランスではサーモセンサーなどでの検温、それから、除菌、そして、間隔を空けての入場制限、こういったものを実際に実施しています。それから、ロビーでは、ソーシャルディスタンスの確保の呼びかけを行いながら、できるだけお客様が離れてお過ごしいただくということをせざるを得ないのが現状です。ですので、今



まで狭いと感じなかったロビーでさえも、とても窮屈に感じているというのが現実です。ですので、広過ぎるというのは決してないと思います。ゆったりと過ごせるスペースを確保するという考え方はぜひ貫いてほしいと思ったところです。舞台が人に豊かさを与えてくれることと同様に、このスペースもお客様に豊かさを感じていただける場だと強く思います。

- それから、18ページに立見席の写真がありますので、ここも一言添えさせていただきます。クラシックホールにはほとんどこのスペースがないというのが特徴です。しかし、必ず公演には遅れて来られるお客様がいらして、この対応をどうするかということは我々にとっては非常に重要な問題になります。このスペースがあるのとないのでは大変な違いになり、遅れて来ても一刻も早く中に入りたいと思われるお客様をどのように対応するかということが我々の一番の腕の見せどころになるので、ここで一時対応ができるということがとても有効です。出来上がった建物の中でどうやって対応するかということは日々真剣に考えており、お客様にいいホールだと思っていただくという役割を担っていると思っていますので、できるのであれば、こういったスペースが、客席の中にもこのスペースがあると非常にやりやすいと思います。本来の使い方とは違うとは思いますが、そういったことも一言お伝えしておきたいと思います。
- いずれにしても、ゆったりと過ごせるスペースを確保するというスタンスは、ぜひ大事に実現していただきたいと思いました。

#### 【本杉部会長】

- ありがとうございます。私もついこの間行った小さなホールでは、休憩時間に全員外に出され、その間、消毒をしていました。雨ではなかったので良かったのですが、雨だったらどうしたのかと思いました。それから、外に出られるような場所があったので良かったのですが、都会の中心部だとなかなか難しいかもしれません。
- このエントランスロビーというのは、おそらく無料ゾーンで、切符を持っていない人も自由に入れるところです。切符を持っている人がもぎりを通って入った先がホワイエと呼ばれるところで、そこが有料ゾーンと無料ゾーンの境目だと思います。特に、雨の日や、早めに来ても寄る場所がない、外で傘を差したまま立っていなければならないということは、現代ではあり得ないと思います。その意味で、自由に過ごせる場所というのは必ず必要です。一般的に、劇場によって違いますが30分から40分ぐらい前に開場

します。そして、その前にすでにお客さんが来ている、溜たまっている場所が必要なわけですから、どうしても無料のロビー空間というのは、ある程度余裕を持っておくことが必要です。おっしゃるとおりコロナのような感染症を考えますと、そんな過密にいるというわけにはいきませんので、ゆったりとした空間が必要かと思います。

- もう一つ、後から来たお客さんの問題というのも話されました。これも日本では少し考えにくいのですが、海外だと扉の取っ手がないというところがあります。中からは出られるのですが、外側からはお客さんが勝手に入れないというので、係の人が簡単な鍵を持っていて、その人が開けないと開かないというような仕掛けもあるぐらいです。日本だとなかなかなじみはないかもしれませんが、そのくらい上演に対する配慮を観客席の側でもしなければならぬということです。そこまで今議論する必要はないですけども、いずれにしてもゆったりと過ごせるということのために、ある広さというのは必要だという話だったと思います。
- 一通り話を聞きましたが、そのほか何かありますか。次のところに行く前に、第5章はまだ全然話してないので、お願いします。

#### 【明石委員】

- 第5章のところですが、「観光・エンターテイメントゾーンのまちづくり」とタイトルがあります。これは大変良いと思います。どう良いかという、劇場と書かず、観光・エンターテイメントゾーン全体について言っていることです。それで、そこは少し気になっているところがあり、それは歩行者ネットワークが、今までの計画どおりだとは思いますが、この歩行者ネットワークのままだと、観光・エンターテイメントゾーンと言っているところが孤立してしまって生きてこないように思います。今からできることというのは限られてはいますが、可能な修正をしていく必要があると思っています。
- どういうことかという、36ページのイメージで、色がついているところが車の道になっていて、歩行者の道が本当は重要なのですが、みなとみらいというのは、みなとみらいホールへ来るところのクイーン軸と、それから、グランモール公園と書いてあるところと、それから、キング軸という、この3つのところが特に大事な歩行者ネットワークとなっています。このグランモール公園というところ、グランモールの軸が、これも字だけは書いてありますけれども、横浜駅の方向へ行ったら切れてしまっている

のです。実際のところは、横浜駅のスカイビルの方から歩行者のデッキを少しずつ通して、いずれつながるのだらうと思うのですが、それは、横浜駅とグランモールがつながるだけであって、エンターテイメントゾーンは、全然違うところにあるという形になります。

- キング軸というのが海に向かっての真っ直ぐな軸ですが、これがなぜ重要かという点、みなとみらい線の新高島駅というのはこの下にあるのです。とちのき通りの下にあるわけではないです。とちのき通りは車がたくさん通行する道ですから、先ほどの1階からのアクセスでない方がいいと言ったのは、とちのき通りを歩くということについて、良い環境に改善するには限界があるかと思うのです。この中では、デッキレベルというか、歩行者が通行できるネットワークと、車のネットワークというのを分ける必要があります。そして、最大の問題は、とちのき通りを渡れないことです。歩行者ネットワークについて私も少し見てみたのですが、地区計画では、細い線だけでも地区施設で渡るように書いてあり、それがそれなりに考えられてはいるのですけれども、当時ですから、あんまり重要になっていないのかもしれないです。このようなプランになったのは、想像でしかないのですけれども、何か歴史的経緯やほかの事情があったりして、全体の計画が出来ていなかったのかもしれませんが、極めて不自然に感じます。グランモールが切れたりして、そして、このエンターテイメントゾーンが横に孤立してあるというところでは、
- これを結ぶためには、劇場にとってもすごく重要ですが、どんな利用をするにしてもやはり向こう側へ渡るというところはデッキで、つまり、ここでいうと、高島中央公園の横浜側、陸側の方から、今の60・61街区の方へ行ける動線が入ってないと生きてこないと思います。今のみなとみらい全体の中央地区の景観形成ガイドラインなどにも出ていません。それは以前つくった計画だからだと思ってしまうのですけれども、ここでエンターテイメントゾーンのまちづくりということで、にぎわいや回遊性ということを考えるならば、それが要るだらうと思います。
- そこは、この事務局が政策局なので、都市整備局やほかの局のこともあるとは思いますが、独立した委員という立場でもあるので、それはやはり要るものだらうと思っと思っています。その見直しをある程度できる方向であることが、劇場をつくることに対しても、どこが劇場の入口になって、どのような形で入ってくるかということになりますし、また、屋外空間の形成というのは今議論していないのですけれども、ポストコロナで屋外空間

の形成のことを考えたり、エンターテインメントということを考えたりしていくときに、どこに来るのかというのはすごく重要です。仮に劇場でなかったとしても、ここは考えないといけない場所だと思いますので、それで今日は少し、そういうことが必要ではないかということを申し上げておきたいと思います。

#### 【本杉部会長】

- ・ 特に歩行者のネットワークです。この35ページのところにも歩行者ネットワークのことがキング軸のところに書いてあったり、水辺空間のところに書いてあったりします。全体としてまちの構造がすごく大きいので、歩行者が端に置かれているようなところがなくもないという感じがします。そこをもう一度しっかりということかと思えます。様々な部局に絡む問題なので、なかなか簡単ではないと思いますが、大切な視点です。

#### 【明石委員】

- ・ このことだけで言うと、もともとみなとみらいホール、横浜美術館と、それから、この新しい劇場がしっかりと有機的につながってということをおっしゃっています。そうすると、今のこの歩行者ネットワークだとそこが繋がらないので、それを少し見据えて改善してほしいというように、劇場の立場からも思います。

#### 【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。だんだん時間が経ってききましたが、先日開催されました管理運営検討部会では、プログラム試算を踏まえた年間運営費と、今日議論しています今回の概算建設費等を合わせて、トータルで市の財政状況と照らし合わせて議論しましょう、両部会の合同部会を開催しましょうということになっており、管理運営検討部会の高橋委員長から提案があったわけです。今後、合同部会で、基本計画検討部会としてどのように説明していくかというのは大変重要なことだと思います。
- ・ そこで、事務局の方から、そのことが資料5に書かれておりますので、それについてご説明をお願いいたします。また、もし今までの議論の中で事務局の方から何かコメントを付け加えたいということがあれば、それも併せてお願いします。

### 【事務局】

- ・ ありがとうございます。委員の皆様方からいただいたご意見の中で、地下部分というものをなるべく少なくすることが建設費の抑制・縮減にもつながるといようなご意見をいただき、それについては事務局といたしましてもその通りだと思っております。今後いろいろと検討していく中で、当然そのような視点を持ってやっていきたいと思えます。
- ・ また、歩行者ネットワークにつきましても、非常に大切だと思っております。ここは地区施設で歩行者ネットワークをつないでいくというような大きな方向性は横浜市としてはございます。しかしながら、細かいところは、今後関係部局と調整をしながら、このみなとみらい全体の活性化、横浜市にとっていい方向に行くように考えていきたいと思えます。
- ・ (資料5-1~3の説明)

### 【本杉部会長】

- ・ ありがとうございます。今、資料5に基づいて説明いただきました。「1 建設費等の取り扱い」について、既に倉田委員から提起がありましたが、480億円という規模の大きな金額ですので、事業化の判断のための数値としては、今日の部会ですぐ決めるということではなく、各委員がお持ち帰りいただきまして、再度少し考えていただき、必要があれば、事務局や関係者の方へ確認等の連絡をいただければと思います。何かあれば、事務局の方に連絡をいただくということにしたいと思えます。その上で合同部会へ提出するということがいかがでしょうか。

### 【委員】

(異議なし)

### 【本杉部会長】

- ・ よろしいでしょうか。では、そうさせていただきたいと思えます。
- ・ 次が「2 建設費等の財源内訳について」ですけれども、これについて何かご意見ありますでしょうか。明石委員、お願いします。

### 【明石委員】

- ・ 480億円の内訳をどうするかということについて、今、事務局からご説明があったように、運営費に当たる部分というのは毎年の支出になりますから、毎年帳尻を合わせないといけないわけです。そのため、チケット収入などでどれだけ入ってきて、ほかの補助金や何かでどれだけ入ってきて、それから、どうなるのかという、収入と支出とを見込んでいかないと、経営を考えていく上では重要なことなので、そこはそういうある程度詰めていくことは、必要なことかと思います。
- ・ 一方で、先ほど説明があったように、建設費については、お金はどうなんだということはあるのですが、管理運営費などとは性格が違うと思うのです。そのため、480億円くらいは要するという大きさが示されれば、その内訳はどうやって調達するのかというのをこの場で一生懸命議論しても出てこないといえますか、この施設自体が成立するかどうかということについて、毎年の運営費の部分と施設の建設費は違うと思うので、これは、これ以上突っ込んでいってもなかなか委員会としてはうまく答えが出ないのではないかと思います。いかがでしょうか。

### 【本杉部会長】

- ・ おっしゃるとおりで、建設費というのはある一定期間に集中して発生しますし、建設期間における財政状況との関係が重要です。今回のように急にコロナのような問題があるということもあります。そのことについては、外部の私たちよりも、行政の中で見通しをどう見極めるかということが大切であるように思われます。
- ・ 一方、運営費は継続して支出を伴うものですし、補助金などは年度によって変わってくるということもあります。継続的に見ていく必要があるのではないかと思います。
- ・ いずれにしても、明石委員から話があったとおり、建設費について、運営費のように財源内訳を出して、支出の見通しの議論を行うことに課題があると思います。高橋委員長とも、これについては別途相談したいと思っています。
- ・ なお、建設費の妥当性などを客観的にお示しできることなど、事務局でさらに今後検討していただければと思います。
- ・ 3も見通しの問題ですので、これをもって2と3の結論としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

**【委員】**

(異議なし)

**【本杉部会長】**

- ・ ありがとうございます。
- ・ 続いて「4 関連する事業の整備について」です。想定されている事業について、説明を事務局からお願いいたします。

**【事務局】**

(資料5－4の説明)

**【本杉部会長】**

- ・ ありがとうございます。事務局から、西側矩形敷地の対応、歩行者ネットワーク、高島中央公園の再整備、屋外空間ネットワーク、劇場外で確保する倉庫等、次回の合同部会までに資料を取りまとめるということになりますけれども、そういうことでよろしいでしょうか。

**【委員】**

(異議なし)

**【本杉部会長】**

- ・ 資料3の39ページに、これもまだアイデアなのかもしれませんが、屋外劇場の可能性ということも書かれております。こういうコロナのような問題があると、屋外の劇場というのもあった方がいいかと個人的には思ったりしますが、そういうことも、次回までに間に合うかどうか分かりませんが、できる範囲で考えていただければと思います。
- ・ 合同部会に向けての議論が本日の取りまとめとなりますので、改めてのまとめというのは省かせていただきます。
- ・ 最後に何か、今までの議論の中で付け加えることがあればお話しいただければと思います。いかがでしょうか。
- ・ ないようですので、進行を事務局にお戻しいたします。よろしく申し上げます。

**【事務局】**

- ・ 長時間のご審議、誠にありがとうございました。次回、合同部会の日程につきましては、今後調整させていただき、あらためてご連絡をさせていただきますので、よろしく願いいたします。
- ・ 以上をもちまして、第4回横浜市新たな劇場整備検討委員会基本計画検討部会を終了いたします。ありがとうございました。